

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月10日

【四半期会計期間】 第71期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社タツミ

【英訳名】 TATSUMI Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伏島 利行

【本店の所在の場所】 栃木県足利市南大町443番地

【電話番号】 0284-71-3131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 木村 英典

【最寄りの連絡場所】 栃木県足利市南大町443番地

【電話番号】 0284-71-3131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 木村 英典

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第2四半期連結 累計期間	第71期 第2四半期連結 累計期間	第70期
会計期間	自2020年 4月1日 至2020年 9月30日	自2021年 4月1日 至2021年 9月30日	自2020年 4月1日 至2021年 3月31日
売上高(千円)	2,280,169	3,222,411	5,779,074
経常損失( ) (千円)	331,067	40,567	229,815
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( ) (千円)	436,264	34,462	344,253
四半期包括利益又は包括利益(千円)	558,789	50,174	359,085
純資産額(千円)	3,544,237	3,693,767	3,743,941
総資産額(千円)	8,173,516	8,636,590	8,693,988
1株当たり四半期(当期)純損失( ) (円)	72.77	5.75	57.42
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益(円)			
自己資本比率(%)	32.5	32.6	32.6
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	124,963	51,363	123,422
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	329,526	30,695	437,053
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	982,371	138,444	892,315
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,343,048	956,610	1,176,738

回次	第70期 第2四半期連結 会計期間	第71期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2020年 7月1日 至2020年 9月30日	自2021年 7月1日 至2021年 9月30日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	35.60	4.63

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の生産活動や設備投資には持ち直しの動きが見られるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が続いております。

当社グループの主要な取引先である自動車業界では、新車販売台数はコロナ禍の影響で大きく落ち込んだ前年同期実績をわずかに上回りましたが、半導体不足や東南アジアからの部品供給不足により自動車各社は減産を余儀なくされており、先行きの不透明感が強まっております。

このような経済環境のなか、当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は、売上高は3,222,411千円（前年同期比41.3%増）、営業損失は24,505千円（前年同期は347,359千円の営業損失）、経常損失は40,567千円（前年同期は331,067千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は34,462千円（前年同期は436,264千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は、8,636,590千円（前連結会計年度末8,693,988千円）となり、57,398千円減少しました。流動資産は4,155,590千円となり235,410千円減少し、固定資産は4,481,000千円となり178,012千円増加しました。

当第2四半期連結会計期間末における負債の合計は、4,942,822千円（前連結会計年度末4,950,046千円）となり、7,224千円減少しました。流動負債は4,150,041千円となり5,834千円減少し、固定負債は792,781千円となり1,389千円減少しました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の合計は、3,693,767千円（前連結会計年度末3,743,941千円）となり、50,174千円減少しました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、220,128千円減少し956,610千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果支出した資金は、51,363千円（前年同期は124,963千円）となりました。

これは主に、棚卸資産の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果支出した資金は、30,695千円（前年同期は329,526千円）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果支出した資金は138,444千円（前年同期は982,371千円の収入）となりました。

これは主に、短期借入金の返済によるものであります。

- (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題  
当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。
- (4) 研究開発活動  
当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、35,590千円であります。  
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,000,000	6,000,000	東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,000,000	6,000,000	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	-	6,000,000	-	715,000	-	677,955

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社ミツバ	群馬県桐生市広沢町1 - 2681	3,186	53.14
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2 - 12 - 6	300	5.00
タツミ取引先持株会	栃木県足利市南大町443	254	4.25
株式会社横浜銀行 (常任代理人 株式会社日本カストディ銀行)	神奈川県横浜市西区みなとみらい3 - 1 - 1 (東京都中央区晴海1 - 8 - 12)	250	4.17
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスター トラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1 - 4 - 5 (東京都港区浜松町2 - 11 - 3)	150	2.50
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町2 - 6 - 2	150	2.50
タツミ従業員持株会	栃木県足利市南大町443	145	2.43
第一生命保険株式会社 (常任代理人 株式会社日本 カストディ銀行)	東京都千代田区有楽町1 - 13 - 1 (東京都中央区晴海1 - 8 - 12)	100	1.67
浜銀ファイナンス株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい3 - 1 - 1	100	1.67
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・ス タンレーMUFG証券株式会社)	英国・ロンドン (東京都千代田区大手町1 - 9 - 7 大手町フィナン シャルシティサウスタワー)	66	1.11
計	-	4,702	78.44

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,994,400	59,944	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	6,000,000	-	-
総株主の議決権	-	59,944	-

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社タツミ	栃木県足利市南大町 4 4 3 番地	4,800		4,800	0.08
計	-	4,800		4,800	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新宿監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,176,738	956,610
受取手形及び売掛金	924,174	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	830,657
電子記録債権	793,606	734,734
商品及び製品	113,447	108,693
仕掛品	367,936	440,142
原材料及び貯蔵品	593,300	692,483
未収入金	348,640	312,828
未収法人税等	254	-
その他	72,901	79,441
流動資産合計	4,391,000	4,155,590
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,062,683	3,073,571
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,957,348	1,992,405
建物（純額）	1,105,335	1,081,165
構築物	179,988	179,988
減価償却累計額	149,562	151,181
構築物（純額）	30,426	28,807
機械及び装置	6,029,395	6,018,696
減価償却累計額及び減損損失累計額	4,591,641	4,547,869
機械及び装置（純額）	1,437,754	1,470,827
車両運搬具	23,797	23,936
減価償却累計額及び減損損失累計額	20,376	21,549
車両運搬具（純額）	3,421	2,387
工具、器具及び備品	558,455	553,520
減価償却累計額及び減損損失累計額	476,875	485,746
工具、器具及び備品（純額）	81,579	67,774
土地	249,490	251,120
リース資産	524,949	953,096
減価償却累計額及び減損損失累計額	177,778	193,537
リース資産（純額）	347,171	759,558
建設仮勘定	579,505	334,136
有形固定資産合計	3,834,683	3,995,777
無形固定資産		
借地権	4,892	4,892
ソフトウェア	2,261	1,748
その他	847	847
無形固定資産合計	8,001	7,488

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	43,466	37,522
長期前払費用	8	8
退職給付に係る資産	311,875	324,672
繰延税金資産	17,304	29,583
その他	87,648	85,946
投資その他の資産合計	460,303	477,734
固定資産合計	4,302,987	4,481,000
資産合計	8,693,988	8,636,590
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	349,324	311,138
短期借入金	2,493,960	2,388,775
1年内返済予定の長期借入金	9,921	-
リース債務	37,426	41,172
未払金及び未払費用	1,121,600	1,246,344
未払法人税等	12,218	33,312
賞与引当金	112,401	114,416
役員賞与引当金	1,749	2,733
その他	17,274	12,148
流動負債合計	4,155,875	4,150,041
<b>固定負債</b>		
リース債務	695,945	681,004
長期未払金	5,970	-
繰延税金負債	62,231	78,258
退職給付に係る負債	30,024	33,518
固定負債合計	794,171	792,781
負債合計	4,950,046	4,942,822
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	715,000	715,000
資本剰余金	621,796	621,796
利益剰余金	1,589,348	1,554,886
自己株式	1,808	1,808
株主資本合計	2,924,336	2,889,873
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	8,575	4,354
為替換算調整勘定	62,916	47,350
退職給付に係る調整累計額	33,336	34,975
その他の包括利益累計額合計	87,677	77,971
非支配株主持分	907,282	881,865
純資産合計	3,743,941	3,693,767
負債純資産合計	8,693,988	8,636,590

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,280,169	3,222,411
売上原価	2,339,881	2,906,578
売上総利益又は売上総損失( )	59,711	315,833
販売費及び一般管理費	287,647	340,338
営業損失( )	347,359	24,505
営業外収益		
受取利息	1,499	2,651
受取配当金	1,539	1,204
助成金収入	40,082	-
為替差益	-	1,984
その他	4,852	6,594
営業外収益合計	47,974	12,434
営業外費用		
支払利息	14,411	28,206
為替差損	15,560	-
その他	1,710	290
営業外費用合計	31,682	28,496
経常損失( )	331,067	40,567
特別利益		
固定資産売却益	4,136	12
特別利益合計	4,136	12
特別損失		
固定資産除却損	749	2,534
減損損失	-	198
投資有価証券評価損	276	-
事業構造改善費用	142,040	-
借入金繰上返済費用	14,441	-
特別損失合計	157,507	2,733
税金等調整前四半期純損失( )	484,438	43,287
法人税等	8,316	25,992
四半期純損失( )	492,755	69,280
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	56,490	34,818
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	436,264	34,462

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失( )	492,755	69,280
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,539	4,220
為替換算調整勘定	70,166	24,967
退職給付に係る調整額	1,407	1,639
その他の包括利益合計	66,034	19,106
四半期包括利益	558,789	50,174
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	475,963	24,756
非支配株主に係る四半期包括利益	82,825	25,417

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	484,438	43,287
減価償却費	184,923	184,124
減損損失	-	198
有形固定資産除却損	749	2,534
退職給付に係る資産の増減額( は増加)	8,259	12,797
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	9,826	3,099
賞与引当金の増減額( は減少)	38,608	2,014
役員賞与引当金の増減額( は減少)	1,857	984
受取利息及び受取配当金	3,038	3,856
支払利息	14,411	28,206
為替差損益( は益)	41	16
有形固定資産売却損益( は益)	4,136	12
投資有価証券売却損益( は益)	276	-
事業構造改善費用	142,040	-
借入金繰上返済費用	14,441	-
売上債権の増減額( は増加)	326,623	192,419
棚卸資産の増減額( は増加)	266,353	158,794
仕入債務の増減額( は減少)	68,387	39,462
未払金の増減額( は減少)	508,921	108,225
その他の流動資産の増減額( は増加)	42,404	32,133
その他の流動負債の増減額( は減少)	21,679	103,345
小計	93,877	24,082
利息及び配当金の受取額	3,042	3,856
利息の支払額	13,764	30,581
割増退職金の支払額	3,008	-
借入金繰上返済費用の支払額	14,441	-
法人税等の支払額	2,914	555
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>124,963</b>	<b>51,363</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	150,000	-
有形固定資産の取得による支出	506,974	48,088
有形固定資産の売却による収入	4,136	13
無形固定資産の取得による支出	23	-
投資有価証券の取得による支出	123	125
投資その他の資産の増減額( は増加)	23,459	17,504
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>329,526</b>	<b>30,695</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	1,388,115	109,810
長期借入金の返済による支出	940,054	9,921
リース債務の増加による収入	565,034	-
リース債務の返済による支出	30,504	18,387
配当金の支払額	219	325
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>982,371</b>	<b>138,444</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,325	375
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	517,556	220,128
現金及び現金同等物の期首残高	825,492	1,176,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,343,048	956,610

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28 - 15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

1 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行8行と当座貸越契約を締結しております。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
当座貸越極度額	2,700,000千円	2,700,000千円
借入実行残高	1,035,000	1,035,000
差引額	1,665,000	1,665,000

## (四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
給与	78,148千円	72,316千円
賞与引当金繰入額	10,060	10,912
役員賞与引当金繰入額	1,749	2,733
退職給付費用	425	796
運搬費保管料、荷造包装費	75,569	110,597

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	1,343,048千円	956,610千円
預入期間が3か月を超える定期預金		
現金及び現金同等物	1,343,048	956,610

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは、自動車用部品事業の単一のセグメントであるため、記載しておりません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 自 2021年4月1日 至 2021年9月30日
日本	2,576,014
米州	434,562
アジア	211,834
顧客との契約から生じる収益	3,222,411
その他の収益	
外部顧客への売上高	3,222,411

(注) 当社グループは、自動車用部品事業の単一セグメントであるため、顧客との契約から生じる収益を分解した情報についてセグメントに関連付けて記すことはしていません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純損失( )	72円77銭	5円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	436,264	34,462
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	436,264	34,462
普通株式の期中平均株式数(株)	5,995,173	5,995,173

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月10日

株式会社タツミ  
取締役会 御中

新宿監査法人  
東京都新宿区

指定社員 公認会計士 田 中 信 行  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 壬 生 米 秋  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社タツミの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社タツミ及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。